

言えなかったあの言葉



岡山県 岡山県立岡山操山中学校 1年

松江 夏樹

第5回日本語大賞 中学生の部 優秀賞 受賞作品

言えなかったあの言葉

岡山県 岡山県立岡山操山中学校 一年 松江 夏樹（まつえ・なつき）

今でも、よく考えることがあります。簡単だと思う言葉ほど、口に出して言えないことがあると。そして、その言葉を言えなかったことで、どれだけ後悔することがあるかを。心で思っている、なかなか口にできなくて、両親や妹、そして大切な友達とけんかになつてしまう言葉があります。僕は、なかなか、「ごめん」という言葉がいえなくて、後悔したことがあります。たった三文字の「ごめん」という言葉なのに、なぜか言えなくて、あの時言っておけばよかったと思うことができました。

小学校の時の出来事です。休み時間にドッジボールをしていた時、ささいなことで、一番仲が良かった友達と口げんかになりました。原因は、本当に単純なことで、普段ならどちらともなく、「ごめん」で、けんかはすぐに終わるようなことでした。でも、その時の僕は、どうしても、「ごめん」の一言がいえず、黙ってしまいました。「あっ」と思ったときに、休み時間が終わり、何も言えずに、お互い黙ったまま教室へ戻ってしまいました。授業中も、休み時間のけんかが原因で、先生のお話は、頭の上を通り過ぎていきました。次の休み時間には、「ごめん」って言おうと思ひ、授業中その友達の背中をずっと見ていました。でも、休み時間になると、次の授業の準備で、話すこともなく過ぎていきました。昼休みになり、またみんなドッジボールをしていても、その友達とは、なんとなく気まぐずい雰囲気のまま時間だけが過ぎていきました。「ごめん」って一言いつたらよかったです。友達はそのからも、僕と一言も話さず、目も合わせてくれませんでした。そんな友達を見ていると、だんだん謝ろうという気持ちも薄れてしまい、別々に下校することになりました。家に帰ると、友達とのことが頭から離れず、イライラした僕は、つい妹に八つ当たりをして、母に怒られました。さらに、どうしてそんなにイライラしているのかと母から聞かれても、何も答えられませんでした。きつと、母に学校であった出来事を話したとしても、あなたが、お友達に謝ったらいいじゃないと言われるのは、分かっていたからだと思います。

そうして、僕も友達も一切話さなくなつて、数日がたちました。あんなに、何でも話していたのに、たくさん笑っていたのに、学校に行つても何となくつまらないなあと思うようになってしまいました。ところが、いつものように、昼休みにドッジボールをしていると、友達と僕がたまたま外野になりました。最初は気まぐずい雰囲気のままいました。しばらくすると、僕と友達の方に、ボールが飛んできました。それからは、いつもの習慣で、僕と友達で、相手のチームを挟み撃ちするように、僕が反対側に走りました。すると、いつものように友達から僕にボールがパスされました。そして、僕が相手チームめがけて、ボールを投げたら、見事に的中しました。すると、友達が何でもなかったように、「やった！」と言いました。それから、僕はようやく友達に「ごめん」と言うことができました。すると、友達は、「もういいよ、気にしてないよ」と言つて、笑つてくれました。なんでけんかになつたのか、お互いにもう理由さえも分からなくなつていたけど、でも、ここで謝らなかつたら、友達とはずっと話さなくなるのではないかと思ひ、必死でした。けんかになつた時に、もっと早くに「ごめん」って言えば良かったと思ひながら、ふとこの数日間のことをおい出してしまいました。学校にいても、心から笑うことのできなかつた数日間。お弁当を

食べても、あんまりおいしくなかった数日間。家に帰っても、妹や両親に、八つ当たりしてしまった数日間。「ごめん」という一言が、あの時言えたら、こんな無駄な数日間は送ることがなかったのかもしれないと思いました。そして、この三文字しかない「ごめん」という言葉が、どんなに大切な意味を持っているのか分かったように思います。後になつて友達は、あの数日間はずっとつまらなかつたといっていました。僕もそうでした。大切な友達を失いかけて初めて「ごめん」という言葉の意味が分かったように思います。口に出したら簡単な「ごめん」。もっと素直な自分になって、僕が悪いときには、すぐに「ごめん」と言えるような自分でいたいと思っています。あの時のような、後悔をしないために。